

(第2回 適性検査型)

2026(令和8)年度適性検査問題

適性検査Ⅰ

(実施時間：45分)

《注 意》

- (1) 問題は **1** のみです。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。

城西大学附属
城西中学校

1 次の文章1、文章2、会話を読んで、後の問いに答えなさい。

(※印のついている言葉には、本文の後に〔注〕があります。)

文章1

「自立」ということは、人々の心を惹きつける標語^{※1}として、長い間その地位を保ち続けているようである。時代によって、そのような標語は変化するもので、かつては「滅私奉公^{※2}」などというのが幅^{はば}をきかせていたが、今は評判がよくない。「自立」は、その魅力^{みりょく}をなかなか失わずにいるようである。しかし、どのような有難^{ありがた}い標語でも、それが人気と共に一人歩きをはじめると、不都合なことも生じてくると思われる。

いつぞや、こんなことがあった。幼稚園^{ようちえん}の子どもで言葉がよく話せないということで、母親がその子連れて相談にいられた。知能^{ちのう}が別に劣^{おと}っているわけでもないのに、言葉が極端^{きょくたん}におくれている。よく話を聞いてみると、その母親は、子どもを「自立」させることが大切だと思いい、できる限り自分から離^{はな}すようにして子どもを育てたことである。夜寝^{よる}るときもできるだけ添寝^{そいね}をしないようにして、一人で寝かせるようにすると、はじめのうちは泣いていたが、だんだん泣かなくなり、一人でさっと寝にゆくようになったので、親戚^{しんせき}の人たちからも感心されていた、というのである。

このようなとき、その子の「自立」は見せかけだけのものである。親の強さに押^おされて、辛^{しん}抱^{ほう}して一人で行動しているだけで、それは本来的な自立ではなく、そのために言葉の障害などが生じてきている。このときは、そのことをよく説明して、母親が子どもの接近を許すと、今までの分を取り返すほどに甘^{あま}えてきて、それを経過するなかで、言葉も急激に進歩して、普通^{ふつう}の子たちに追いついてきたのである。

自立ということ依存^{いそん}と反対である、と単純に考え、依存をなくしてゆくことによって自立を達成しようとするのは、間違^{まちが}ったやり方である。自立は十分な依存の裏打ちがあつてこそ、そこから生まれでてくるものである。子どもを甘やかすと、自立しなくなる、と思う人がある。確かに、子どもを甘やかすうちに、親の方がそこから離れられないと、子どもの自立を妨^{たげ}げることになる。このようなときは、実は親の自立ができていないので、甘えること、甘やかすこ

とに対する免疫が十分にできていないのである。親が自立的であり、子どもに依存を許すと、子どもはそれを十分に味わった後は、勝手に自立してくれるのである。

自立と言っても、それは依存のないことを意味しない。そもそも人間は誰かに依存せず生きてゆくことなどできないのだ。自立ということは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれほど依存しているかを自覚し、感謝していることではなからうか。依存を排して自立を急ぐ人は、自立ではなく孤立こりになってしまう。

(河合隼雄『こころの処方箋』)

〔注〕

※1 標語… 意見・主張などを簡潔に言い表した短い語句。モットー。スローガン。

※2 滅私奉公… 自分の私利私欲を捨て、会社や国家などの公のためにつくすこと。

※3 依存… 他のものによりかかることによって、生活や存在が成り立つこと。

※4 免疫… 細菌やウイルスなどの病原体などから体を守るための防御システム。そこから転じて、物事が度重なるにつれて慣れてしまうこと。

次の文章は「ぼく」と人間の言葉を話す猫の「ペネトレ」が会話している場面です。

ぼく…ぼくね、自分なりには一生懸命けんめいやってみただけど、なんだかうまくいかななくて、あんなふうにやるんじゃないかってなあって、がっかりしたり、後悔こうかいしちゃうことが多いんだよ。

ペネトレ…後悔なんかすることはないさ。だれだって、個々こごのことがらに関しては、まちがいをしでかすことも、不始末をやらすこともあるさ。でもそういうことは、結局、そうでしかありえなかったのだから、それでいいんだよ。そう、自分に言ってみてやらないとね。くよくよ悩なやむ必要なんてぜんぜんないんだ。

ぼく…だれかがそう言ってみてさめてくれれば、安心できるんだけど……。

ペネトレ…そう思うなら、きみ自身が、自分で自分がいいと思えずに悩んでいる人にむかって、そう言ってみてやればいい。いや、ただ言ってみただけじゃなくて、本気でそう思えるようになれば、なおいいね。猫ねこや犬を「よしよし」ってかわいがるときみたいに、そのありかたのまま、そのままでもいいんだってね。きみが心からそう思えるってことが、その人にとって、ものすごく力になると思うよ。

ぼく…ぼく自身のときも、だれかがぼくにそう言ってくれるかな……。

ペネトレ…だれも言ってくれないさ。ひとからはそんなこと期待してもムダだよ。自分の場合は、自分自身で「これでいいんだ」って思わないとね。ほんとうにそれができるとことが「強い」ってことなんだよ。でもね、たとえきみがそこまで強くはなれなかったとしても、ひとにそう言ってみてやることなら、かんたんにできるよ。言ってみるだけじゃなくて、本気でそう信じてることだってね。

(永井均『子どものための哲学対話 人間は遊ぶために生きている!』(一部改変))

Aさん——「**文章1**」は子どもの「自立」について説明しているね。「自立」という言葉を辞書で引くと、「他の力によらず自分の力で身を立てること。ひとりだち。」と書いてあったよ。でも、よくわからないなあ。

Bさん——辞書じゃないけど、私が読んだ本には

- ① 自分のことを自分で考えて決められること
- ② 自分の行動に責任を持つこと
- ③ 気持ちをコントロールしたり、言葉で伝えられること
- ④ 自分の力と限界を知ること

の四つのポイントで説明していたよ。

Cさん——それは興味深いね。

Aさん——「① 自分のことを自分で考えて決められること」っていうのは、たとえば、宿題や遊びの計画を自分で立てるみたいなの、「どう行動するか、自分の考えを持つ」ってことかなあ。

Cさん——そうだね。さらに、失敗したら「次にどうするか」を自分で考えるってことも含まれると思うよ。

Bさん——「② 自分の行動に責任を持つこと」っていうのは、忘れ物をしたときに言い訳するんじゃないかって、どう改善するか考えるときか、約束や時間を守ろうとするみたいなの。「相手の気持ちも考えて行動する」っていうことだと思うな。

Aさん——なるほど。「責任を持つ」って聞くと難しそうだけど、相手の立場に立ったり、自分のしたことを自分で振り返ったりして次につなげるってことだね。

Cさん——「③ 気持ちをコントロールしたり、言葉で伝えられること」っていうのは、ただ、感情を押さえつけたり何でも口にしてしまうことではなくて、相手の気持ちを考え、て行動しようとしてたり、自分が困ったときは「助けて」って言うことの大切さのことを言っているんじゃないかな。

Aさん——そうだね。自立って、「誰にも頼らない」ってことじゃなくって、必要なときに頼

れる力も含まれるんだね。

Bさん——「④自分の力と限界を知ること」っていうのは、自分の得意なことや苦手なことを理解するってことだね。その上で、自分のペースをきちんとつかんで物事に組み組むことが大事だと思うよ。

Cさん——限界を知るってことは、自分にはできないことがあることを認めて受け入れる勇氣が必要だね。それも自立するってことにつながるんだね。

Aさん——「自立」って一言で言ってもいろんな意味があるんだね。それにしても**文章2**は何についての文章なのかよくわからなかったよ。

Bさん——そう？ 私は**文章2**も、「自立」についての文章だと思ったよ。**文章1**は幼稚園の子どもを例に挙げて自立について説明しているけど、**文章2**は小学校高学年や中学生が「自立」することを考えて話しているんじゃないかな。

Cさん——私もそう思うよ。**文章1**では自立とは「**A**」することだと述べていて、**文章2**は自分に対しても他人に対しても「**B**」と認めることが自立につながるかと述べているんだと思うよ。

Aさん——なるほどね。そう考えると、確かに**文章2**も自立についての文章だね。私も自分にとって自立するってどういうことか考えてみようと思うよ。

問一 Aさんの発言の——部「必要なときに頼れる力」について説明した次の文の、空らんに入る言葉を**文章1**から十字以内で抜き出して答えなさい。

「必要なときに頼れる力」を身につけるには、幼いときの が必要である。

問二 Cさんの発言の空らんA・Bにあてはまる言葉を、Aは**文章1**から三十五字以内、Bは**文章2**から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問三 **文章2** で述べられている内容は **会話** の中に出てくる①～④の「自立」の説明のうちどれにあてはまりますか。もつともふさわしいものを番号で答えなさい。

問四 Aさんは「自分にとって自立するってどういうことか考えてみよう」と言っていますが、あなたにとって自立するとはどういうことですか。そして、自立するために何をしていきますか、または何をしようと考えていますか。あなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と「きまり」にしたがうこと。

条件

- ① **文章1**・**文章2**・**会話** の内容をふまえて書くこと。
- ② あなたにとっての自立は一つにしぼって書くこと。
- ③ 適切に段落分けをして書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（ますの下に書いてもかまいません）。
- 。と」が続く場合には、同じように書いてもかまいません。この場合、「で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。

